

高校生 I C T 2022 Conference

in 最終報告会

～テーマ～

デジタル社会における学び方と学びの場

ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」

開催報告書

2022年12月15日(木)

【会場】：内閣府、総務省、文部科学省

主催

高校生 I C Tカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2023年1月23日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2022 開催状況.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2022 最終報告会 開催概要.....	4
4. 主担当.....	12

1. 開催概要

名称：	<p>高校生 ICT Conference 2022</p> <p>テーマ： デジタル社会における学び方と学びの場 ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」</p>
主催：	<p>高校生 ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 <p>(地域団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新潟県サイバー脅威対策協議会 (新潟) ● 特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム (神奈川) ● 長野県 (長野) ● 長野県教育委員会 (長野) ● 長野県警察本部 (長野) ● 福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会 (福岡) ● 大分県 (大分) ● 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 (大分)
共催：	<p>内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省</p> <p>一般社団法人 LOCAL (北海道)、専門学校 静岡電子情報カレッジ、帝塚山大学 (奈良)、特定非営利活動法人なら情報セキュリティ総合研究所 (奈良)、奈良県情報教育研究会 (奈良)、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、長崎県警察本部 (長崎)、大分県教育委員会 (大分)、大分県高等学校 PTA 連合会 (大分)</p> <p>(順不同)</p>
後援：	<p>一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構</p> <p>北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、茨城県、茨城県メディア教育指導員連絡会、茨城県教育委員会、神奈川県、神奈川県教育委員会、新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校 PTA 連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校 PTA 連合会、大阪府高等学校情報教育研究会、一般社団法人せんだんの会、情報教育学研究会、兵庫県私学教育情報化研究会、奈良県、奈良県教育委員会、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、高知県教育委員会、高知新聞、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校 PTA 連合会、長崎県、長崎県教育委員会、長崎県青少年育成県民会議、大分合同新聞社、西日本新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム</p> <p>(順不同)</p>

協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、日本マイクロソフト株式会社、株式会社メディア開発総研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、Twitter Japan 株式会社、グリーン株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、株式会社サイバーフェリックス
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、学校法人岩崎学園、情報セキュリティ大学院大学
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2021 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 73 校 278 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>2019 年 12 月に感染が始まった新型コロナにより、それ以前の日常は激変し、人と人が直接接する機会をなるべく減らす新しいコミュニケーションの時代に入っています。学校においては同年代が集まり語り合い、切磋琢磨するこれまでの姿はなくなり、分散登校やオンライン授業の導入、マスクの常時着用や部活動の制限による社会的距離の確保を前提とする学校生活に変わりました。中でも、高校生に大きな影響を及ぼしているのがオンライン授業の広範囲な導入です。</p> <p>コロナの完全終結は未だですが、ワクチン接種や治療薬の開発が進み、少しずつ新たな生活スタイルの模索が始まっています。これから始まる新しい生活スタイルはどうか、新型コロナにより待たなしで始まった現在のデジタル社会はどうか変わるのか。オンラインをテーマに問題点や課題を洗い出し、新たなデジタル社会への希望とこれまでとは違うライフスタイルへの期待を明らかにする。</p>
開催の概要：	<p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン）</p> <p>(2) 質疑応答・意見交換</p>
高校生 ICT Conference 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長）

	<ul style="list-style-type: none"> 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） 小城 英子（聖心女子大学） 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 〒104-0041 東京都中央区新富二丁目 4 番 5 号 ニュー新富ビル 4 階 TEL: 03-6280-4901</p>
--	--

2. 高校生 ICT Conference 2022 開催状況

開催地	開催日時	会場
北海道	10月2日	オンライン
茨城	10月15日	茨城県立石岡第一高等学校
東京	9月19日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8月18日	オンライン
石川	10月2日	金沢勤労者プラザ
長野	10月15日	オンライン
静岡	9月11日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
大阪	9月18日	オンライン
奈良	10月9日	帝塚山大学
高知	8月16日	オンライン
福岡	9月23日	福岡県中小企業振興センター
長崎	8月20日	オンライン
大分	9月23日	ソフィアホール
全国オンライン	10月10日	オンライン
サミット	11月3日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
最終報告会	12月15日	内閣府、総務省、文部科学省

3. 高校生 ICT Conference 2022 最終報告会 開催概要

日時：	2022年12月15日（木）
10:00-11:00	文部科学省にて高校生プレゼン、意見交換
14:00-15:00	内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する返答会」にて高校生プレゼン、委員・関係省庁との意見交換
16:15-17:15	総務省にて高校生プレゼン、意見交換
場所：	<p>〔文部科学省 総合教育政策局〕 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2</p> <p>〔内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」〕 〒100-8914 東京都千代田区霞が関 3-1-1 中央合同庁舎 8号館</p> <p>〔総務省 情報流通局〕 〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎 第2号館</p>
テーマ：	デジタル社会における学び方と学びの場 ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」
出席者：	<p>[最終報告者] 3名</p> <p>【新潟県】北越高等学校 2年 男子</p> <p>【長野県】長野県松本工業高等学校 3年 女子</p>

	<p>【大阪府】関西学院千里国際高等部 3 年 男子 [参加校引率] 3 名 (内 1 名は随員兼務) [随員] 4 名 高校生 ICT カンファレンス実行委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ・大阪私学教育情報化研究会 ・一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 <p>【文部科学省】 大臣官房審議官 (総合教育政策局担当) 総合教育政策局長 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課長 他 計 : 10 名</p> <p>【内閣府】「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会委員 政府関係者 : 計 : 4 名 (臨席)、この他委員はオンライン参加 内閣府、警察庁、総務省、法務省、文科省、厚労省、経産省、消費者庁 内閣大臣官房審議官 (政策調整担当) 内閣府 参事官 (青少年環境整備担当) 他 計 : 約 30 名</p> <p>【総務省】 大臣官房審議官 (情報流通行政局担当) 情報流通行政局 情報流通振興課長 関東総合通信局 電気通信事業課長 他 計 : 約 10 名</p>
概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 69 名の参加者を得て、「デジタル社会における学び方と学びの場 オンライン環境で「出来ること」「すべきこと」をテーマに高校生が 3 グループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>(1) 高校生 ICTConference2022 サミットでの提言まとめ</p> <p>【1 班】 オンライン環境の整備と向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインツール多くが複雑 ・ネット環境が不十分 ・オンライン授業を受ける事が出来ない <p>○提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン環境の整備&向上 ・メタバース、VR の活用 (※環境と金銭) ・ポータルアプリの開発 (具体的に提示)

【2班】 ICTの技術の差をなくすための Workshop

- ・インターネットの問題は知識、技術の不足から発生する
- ・高校生のネット有資格者等 ICT能力の高い人を巻き込んだ Workshopが必要

○提言

- ・全国で趣味の合う生徒がオンラインで Workshopを開催し ICTを話し合う
- ・議論の内容を他の Workshopにも共有し理解を深める
- ・複数人でチームを作り、インターネットトラブルのテーマを決め解決案をまとめる

○お願い

- ・各学校でのアンケートフォームを利用する環境整備
- ・学校での時間の確保

【3班】 高校生が作成する情報科目のマニュアル

- ・学習環境が未整備の生徒の存在
- ・教師ではなく、生徒同士が情報科目を教え合う必要性

○提言

- ・家庭事情に合わせた支援で、平等に学習ができる環境の整備を行う
例) タブレットの貸出無料化
- ・商業高校や高専など情報科目を深く学ぶ生徒による話し合いでマニュアルを作成する
- ・年4回のアップデート
- ・高校生による小学生、中学生への学習支援の実施

(2) 文部科学省「最終報告会」感想・質疑応答

(文科省) 文科省でも GIGA スクールで1人1台端末を実現したり、MEXCBT というオンライン学習システムを開発したり様々な取り組みを行っているが、高校生側から見ると、周囲に ICT 技術の高い人がいないなど、いろんな課題があることがわかった。今回の取組では、課題を見つけてそれをチームで解決していくことを実践している。特に印象に残ったのは「教え合う」という要素があったこと。政府としては、高齢者が情報化社会のスピードに追いついていけないことが大きな課題と考えており、高齢者のサポートに高校生の力を借りて進めていきたい。課題認識を大人に提示できる能力は素晴らしい。 今後はそれぞれが持つスキルを共有し、モデル地区などで検証、全国普及という流れになることを期待する。

(文科省) IT 活用能力もさることながら、表現する力をしっかりと身につけている。 幼いうちにたくさん吸収して ICT 能力を高めていける一方で、さまざまな問題点もあると思う。 学校や家庭で高校生の皆さんが経験した課題や問題の事例を聞かせて欲しい。

(生徒) Twitter を使っていて知らない人から DM が来て怖かった。ネットリテラシーを教育に取り入れて欲しい。

(生徒) 小学校の時からスマホを使っているが保護者がフィルタリングをかけていたので問題はなかった。 フィルタリングの普及啓発に力を入れて欲しい。

(生徒) 私は、フィルタリングはかかっていなかったが、保護者からは失敗も自己責任、自分で学びなさいというスタイルだった。 フィルタリングをし過ぎると自分で解決する能力が涵養されないのではないかと思う。

(文科省) 私は推進係で、フィルタリングの普及啓発をやってきたが、機能を制限することも活用することも大事。判断能力の低いうちは保護者が一緒に伴走して欲しいと思うが、安全か危険かを自分で気づけるようになることが大切と考えている。 とはいえ子どもたちが置かれている環境がさまざまなので悩んでいる。 米田先生の意見をうかがいたい？

(米田) 先生方も頑張っているが、進化のスピードがとても速い。 VR やメタバースなど新しい技術をうまく取り入れていくか、防災と ICT など横断的に学びあい循環していくような環境を関連省庁や関連団体が協力して実現して欲しい。

(文科省) アプリはとても魅力的。ベンチャー企業を立ち上げたらどうか。ブラッシュアップして欲しい。

(生徒) 私は、工業高校で勉強しているので興味はあります。

(文科省) ワークショップは大学の先生などに発信するとつながるのではないか。高校生がワークショップを開催することに価値がある。商業高校や高専がマニュアルを作るという発想はどこからきたのか？

(生徒) 親戚の商業高校生や YouTube を見てそう思った。

(文科省) IT 利用を自由に工夫する力、別次元で世の中を変えていく力を感じた。高校生が主体的につながっていけば、学校や地域の枠にとらわれず広がっていくかもしれない。発信することでもっとつながりが広がっていく。仕事としてやらされることと切り分けて「楽しい」をつなげていくことが大切。今の時代ならちょとした時間の隙間をつなぎ合わせられる。今回のようにオンラインで活動することは、対面とくらべてどうか？ どういう工夫が必要か？

(生徒) オンラインでも対面でもどちらでも可能と考えている。オンラインでも円滑に話し合いが進められた。こういうところに集まる生徒はアクティブなので時間の制約がない分よいと思う。

(生徒) オンラインだからこそ場所を選ばず楽だった。一方でオンラインのコミュニケーションは十分でない場面もあり、組み合わせが重要と思う。

(生徒) 直接会って話した時の熱量や会話のテンポ感がよい。最後はリアルでやるとうまくまとまる。

(文科省) 先生からの声掛けがなかったらカンファレンスに参加しなかったか？

(生徒) 自分の学校は能力の高い人が多い。なりたい自分になれる。深い学びができる。私は、他の学校はどうか知りたくて参加した。

(生徒) 先生からの声掛けで参加したが、自分から調べて参加すればよかった。

(生徒) 先生からの紹介だが、いろんな学びがあって参加してよかった。できればみんなに知って欲しい。

(文科省) リテラシーを高めることは大事だが、興味がない生徒にどのように働きかければよいと思うか？

(生徒) 突出した能力の生徒は、先生に教えたりしている。リテラシーを知らなかったらどうなるのか自分ごととして考えることだと思う。

(生徒) その人の興味と結び付けて考えていくといいと思う。

(生徒) 違う学校の高校生と関わることがなかったので、そこから吸収することで意欲がわいた。 県をまたいで同世代の人がつながるのが良い。

(文科省) 保護者としては、スマホを使いこなせるようになって欲しい反面、子どもの動画やゲームへの依存が怖く強く制限をかけてしまう。 小中学生にもいろいろ話して欲しい。

(文科省) 小学校の段階から情報教育の教科化が必要なのではないかと考えている。 皆さんのワークショップやマニュアルなど興味深く聞かせていただいた。 子供たちは情報におぼれている小さいうちからのリテラシー教育は重要だと感じた。

(文科省) インターネットは犯罪のツールにもなりうるので、犯罪に巻き込まれない、犯罪を起こさないという視点も必要。 皆さんが生まれたころにタブレットはなかった。 技術は進歩するがモラルがついてこない。

(引率) おじいちゃんおばあちゃんにマイナポイントを教えてあげなさいと指導した。これをきっかけに他の生徒も興味を持ちだした。 小学校の子供も、お年玉がアマゾンギフトカードになっているケースもある。

(引率) ICT カンファレンスは7年前から参加しているが、今年初めて最終報告会に参加できた。 メタバース、VRの先には Society5.0 が来て、AI が提案してくる。 これからもどんどん変化し、リテラシー問題も解決されるものもあるがさらに新たな問題も出てくる。 自分で考えて解決する姿勢が大切になる。

(文科省) サミットを参観したがさらに進化していてびっくりした。 その後も交流は続いているのだろうか？ このつながりをこれからも大事に。 今日の発表はスタートと考えてこれからも継続して頑張ってもらいたい。

(3) 内閣府「最終報告会」感想・質疑応答

(内閣府検討会構成委員) マニュアル作りなどに高校生が OB として参加するというアイデアはよい。 卒業まで2か月ある。その間に提言をもとに具体的に社会を変えるような活動をして欲しい。

(生徒) 個人の考えではあるが自分の高校でワークショップをやってみたい。どこの高校にも人材がいるとは限らないので、スキルの高い生徒を集めて広げたい。

(生徒) 学校内や近くの学校でテスト的に始めて可能性があれば全国的に広げていきたい。

(内閣府検討会構成委員) 応援するので頑張ってください。 行動する高校生は大事だがなかなか手を上げてくれない。

(内閣府検討会構成委員) インターネットに関する国際会議に日本からは若い人が参加していない。 来年 IGF (インターネットガバナンスフォーラム) が日本で開催されるので、ぜひプレゼンしてはどうか。

(内閣府検討会構成委員) メタバースと VR の活用について、若い皆さんはどのように使うのが効果的なのかアイデアはあるか？

(生徒) 長野開催では、オンライン授業ではコミュニケーションを取ることが

難しいので、それを補うためにメタバースや VR 空間でコミュニケーションの場を設けたいという意見が出た。

(内閣府検討会構成委員) ワークショップは難しいと思うが、どのようなテーマで考えているか?

(生徒) 高校では学ぶ機会が少ないデータ収集やデータのとり方(統計学的な)をテーマとして取り上げ、習ってみたい。

(内閣府検討会構成委員) 情報科目の件、ギガスクール構想で実現しているのではないか?不十分なのか?

(生徒) ギガスクールの端末配布は小中学生では完了しているが、高校は学校によってまちまち。運用方法も統一されていない。

(内閣府検討会構成委員) 主体的に社会に出てからもつながっていくという提案はよい。ICT能力の向上は、イメージだけで具体的には難しいのかな。どういうところまで能力を向上させればいいのか設定があるといいと思うが、どのように考えているか。

(生徒) ワークショップもいろいろなテーマで考えている、データサイエンス、リテラシー、インターネット免許制度など

(内閣府検討会構成委員) 3つの提言については各省庁でしっかりと受け止めてもらいたい。企業の参加も取り入れていきたい。企業人のスキルの取り込み。学校や地域で取り組んでいきたいことはたくさんあるが担い手がいないので、高校生の皆さんが考えた内容を実現に向けて委員は努力されたい。

(内閣府検討会構成委員) 子どもたちがやるということが重要。大人や企業の支援は必要であるが、高校生の皆さんが自ら動いて学んで欲しい。

(内閣府検討会構成委員) デジタル系のスタートアップをやる人は君たちのようなモチベーションを持っている。スタートアップの先輩や支援してくれる人の接点を作れないだろうか。経産省に頑張ってもらいたい。

○2023年度のテーマについて

(米田実行委員長) アフターコロナ社会と ICT、デジタルウェルビーイング、デジタルシチズンシップについて高校生たちに考えてもらいたいと考えている。

(内閣府検討会構成委員) いいテーマだと思う。高校生から見た利活用を具体的に考えてもらいたい。さらにデメリットの克服も。

(米田実行委員長) 小中高大学から社会人に、成長する過程でこのことをどう考えていくかをつないでいきたい。国際的な視点ということで、英語のカンファレンスを考えている。

(内閣府検討会構成委員) 国際的な広がりはいい。来年のテーマは海外発の考え方なので。

(内閣府検討会構成委員) カンファレンスの参加者を OB として参加し続けることをこの中に取り込んで欲しい。

(内閣府検討会構成委員) 通訳を付けて母国語で話すことが大切。英語ができ

る子だけで議論するのはおかしい。 GIGA スクールについて、学校で文房具として使うからには失敗しても解決できるような学びの場として欲しい。

(4) 総務省「最終報告会」感想・質疑応答

(総務省) 「ICT 能力が高い」ということをどのように考えていますか？ 例えば、ユーザーとしての操作能力、プログラミング能力、機器開発能力とか？

(生徒) リテラシー的なものが念頭にあります。ICT 能力を高めて欲しい理由の一つにネット犯罪に巻き込まれない、犯罪に加担しないなどが重要だと思う。

(生徒) 情報社会で技術を身に着けることは生きる幅が広げ、良い面を伸ばし悪い面を無くすことと考えます。

(総務省) リテラシーとは何ですか？ 皆さんにとってリテラシーとは何が大事と思いますか？ 例えば作法、その作法を考える時に何が正しいと思いますか？

(生徒) 作法は相手を傷つけない、自分がされて嫌なことをしないことで生まれたものだと思う。

(総務省) 具体的な場面ではどうですか？

(生徒) 実体験で言うと、SNS の情報が真実なのかどうかを調べる能力もリテラシーの一つで、発信する際のモラル的なものもその一つだと思う。

(生徒) 例えば、コロナが流行した時にさまざまなデマがあった。情報を鵜呑みにしない。真偽を確かめて活用することが大切です。

(総務省) こうしてリアルで話しているときの真偽、ネットでツールを使った時の真偽、見極めの差はあると思いますか？

(生徒) ネットは、他人が勝手に会話に入ってくることで自分の立場が見えなくなり、言いたいことが言えなくなったりする場合がある。真偽が見えなくなる場合もある。

(生徒) ネットは文字で会話をするので、表情が見えない。話の齟齬や解釈の違いが起きやすいと感じている。

(生徒) ネットにはたくさんの情報があるので、質の高い情報を集めやすいというメリットもある。

(総務省) 良くも悪くもネットは一人称の世界で「私は」こう思うという主張が強い世界。インターネットは、あれもできますこれもできますというが、できることとうまく使えることは違う。私たちが人間として大切にしなければいけないコミュニケーションは何か、それを助けるツールは何かという発想が大切だと思う。皆さんのアイデアの形は素晴らしいが、今のコミュニケーションの中に置くとしたらどこに置くのか。おかなければならない時にどういう悪影響を考慮しなければならないかを考えることが重要だと思います。

(総務省) Z 世代と言われる皆さんは、インターネットについてどのように考えていますか。皆さんの世代でもリテラシーが必要だという体験的なことを聞かせて欲しい。

(生徒) 自分の意見が合っているかどうかの確認、例えば人種差別についてのリテラシーなどについてです。

(生徒) 知らない人からの DM や通知への対処で悩むときがある。

(生徒) 若いので経験がない。リテラシーは経験と置き換えてもよいのではないのでしょうか。

(総務省) 差別をしないようにしましょうというのは、自分がされて嫌なことは他人にしないようにしようというシンプルなルールですが、それはリアルでもオンラインでも変わらない。では、なぜネットのリテラシーを強調しようと思うのですか。

(総務省) リアルとオンラインでは間の読み方が違うのだと思いますか。

(生徒) リアルでは何気なく言ったことでも、ネットでの発言はログが残るので負の連鎖に陥る。こうしたことを減らすことが必要だからだと思う。

(生徒) チャットは、早く返さないといけないという焦りや、顔が見えない不安がある。

(生徒) 文字コミュニケーションは、解釈で異なる。表現を変えたりして確認することが重要になる。

(生徒) 「ちょっと待って」と間を開けてから返したりすることがある。

(総務省) 一生懸命考えると疲れませんか。

(生徒) 文字は残り続けるので考えの変化が分かりづらい。

(総務省) 皆さんはいろんなことに気が付いていて立派だが、周りの友達にはそこに気づけずに失敗する人もいるのか？

(生徒) いますね

(総務省) 小中学生が GIGA で一人一台の端末になっているが、皆さんは学校で端末支給はありますか？ それとも BYOD でしょうか？ それを使ってコミュニケーションを取ったりするのでしょうか？

(生徒) PC は作業、スマホはコミュニケーションの道具です。

(生徒) 学校支給のタブレットは勉強に関係のないアプリを入れない規則になっている。趣味のプログラミングは私物の PC でおこない、スマホはコミュニケーションです。

(生徒) タブレットは勉強の道具です。

(総務省) 私物スマホと学校のタブレットでダブルスタンダードになっていませんか？

(生徒) 私の学校には校則が無く、家庭でもルールを決めていない。自分で考えてルールを決めている。

(生徒) スマホや家庭のパソコンを自分で好きなように使える。

(生徒) タブレットからスマホとデバイスを変えるだけで生活のパターンが変わる。

(総務省) 保護者は心配しないのですか？

(生徒) 注意しないと判らない人にはなるなど言われている。自分でできなければ意味がない。

(生徒) 中学生までは保護者からは利用時間を制限されていたが高校からは無くなった。しかし、目が悪くなってしまった。

(生徒) 段階的にやれることが増えていった。最初フィルタリングも掛けられていたが、規制を緩めるためには交渉する必要があった。

(総務省) 先生方いかがですか？

	<p>(引率) 当校ではようやく iPad 支給、スマホ持ち込み可になってきたが、教員の大半は保守的で、抵抗は強いが、生徒たちは自律的にうまくやっている。</p> <p>(総務省) IT が当たり前ではなかった世代とそうでない世代の拮抗でしょうか。</p> <p>(引率) かつて、PC が必要な生徒は、保護者と交渉して PC を買っていた。今は BYOD になったが、教える立場としては、ネットの危険性は使ってみなければわからない。小さな失敗をしつつ経験を積んでいくのだと思う。リテラシーはお作法というより経験の積み重ねだと思います。</p> <p>(委員長) 保護者をどう納得させるかが人間関係だったり信頼関係だったりする。便利な社会が豊かな社会とは言えない。ネットが出てきたことによって何が幸福かを再考する時代、調べ学習は必要だが、モチベーションや姿勢を育てる必要があると感じている。</p> <p>(総務省) テレワークを進めたが、元に戻すという動きがあるのも判らないではない。これからは従来のやり方とデジタルをうまく組み合わせる必要があり、それぞれの世代が議論しながら少しずつ変化して良い社会を作っていきましょう。</p>
--	--

4. 主担当

<p>一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 大阪私学教育情報化研究会 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会</p>	<p>事務局</p>
--	------------

以上